

未来を創る出会い

ひがしおおさか
東大阪市長(大阪府) **野田 義和**



東大阪市の特色と私について

東大阪市は、日本国内外で高い技術力を誇る中小企業が集積し、「モノづくりのまち」として全国に名を馳せています。市内では、歯ブラシから人工衛星まで多様な製品が製造されており、技術革新に積極的に取り組んでいます。また、全国高等学校ラグビーフットボール大会の開催地である花園ラグビー場を有し、「ラグビーのまち」としても知られています。

そんな本市は昭和42年2月1日に布施・河内・枚岡の3市が合併して誕生しました。私自身も昭和32年2月1日生まれで



いつもの散歩道の長瀬川沿い

あることが運命的なつながりを感じています。

忙しい日常の中でも自分の時間を持つことは大切だと思っています。私の楽しみの一つは深夜の読書で、特に歴史に関する本を読みます。歴史上の人物の選択や困難の乗り越え方を知ることが、市政における判断力を養っています。本市名誉市民である司馬遼太郎氏の『坂の上の雲』は、長編にも関わらず、何度も読み返し、多くの学びを与えてくれました。もう一つの趣味は散策で、休日は少ないものの、朝夕に街を歩くことで市民の生活を直接感じられ、「市長さん、元気？」と声をかけていただくことが私の励みになっています。

市長として、さまざまな分野の方々との出会いがあり、経済界、教育、福祉、さらにはスポーツに至るまで、実に多彩な分野の方々とのご縁に支えられてきました。特に思い出深いのは、ラグビー関係者との交流です。本市は「ラグビーのまち」として知られ、花園ラグビー場を中心に多くのドラマが生まれました。ラグビーの精神「One for all, all for one」は、市政運営の基本姿勢にも通じています。市民とのふれあいや地域の声を大切にしながら、私の座右の銘である「上善如水」の言葉の万物を潤しながら争うことなく、低いところに身を置く水のように、しなやかであり

ながら、市民の暮らしをしつかりと支える存在でありたいと思っています。

医工連携と文化芸術振興との出会い

本市には約5500社の中小製造業が集積し、「歯ブラシから人工衛星まで」と表現されるように、社会を支えるあらゆるモノづくりが行われています。平成28年当時、大阪大学大学院医学系研究科研究科長・医学部長(現…大阪警察病院病院長)の澤芳樹先生と出会い、「医療現場には、まだ世にない道具や技術が求められている。しかし、大企業だけではそれを全て実現できない。東大阪の中小企業が



澤芳樹先生とNakanoshima Cross協定式にて



文化創造館大ホール



藤岡幸夫氏と関西フィルハーモニー管弦楽団東大阪特別演奏会にて

持つ技術こそが、医療を前に進める大きな力になる。」という言葉に強く心を打たれ、大学と企業、市とが連携し、医療機器の開発を支援する取り組み「医工連携プロジェクト創出事業」をスタートさせました。事業開始以降、医療者や医療機器企業からの相談件数は1100件を超え、細胞分析装置の開発や手術用吸引器の量産、大阪・関西万博に採用された製品も誕生しています。令和7年には、未来医療国際拠点「Nakanoshima Cross」とも自治

しています。令和7年には、未来医療国際拠点「Nakanoshima Cross」とも自治

体で唯一連携協定を結びました。再生医療や先端医療機器分野の社会実装、事業化を促進すべく、今後もさらなる貢献を続けていきます。

また、私は市長として、「市民の暮らしを支えるのは産業や経済だけではない。心の豊かさを育む文化芸術も大切だ」と考えていました。そうした思いの中で、私は関西フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者である藤岡幸夫氏に出会いました。藤岡氏は地域密着型の活動を推進されており、本市の文化芸術の発信拠点である文化創造館のコンサートホールは、設計の段階からご協力いただきました。また、子

どもが文化芸術に触れる機会の創出を重点的に進めるため、令和3年度から市立小学校6年生を文化創造館へ招待し、関西フィルハーモニーの生演奏に触れる機会を提供しています。

子どもたちにとって一流の音楽との出会いは一生の財産になります。こうした文化芸術の取り組み

が、市民の心を豊かにし、まちの魅力を高めることにつながっているのです。

一期一会を大切に 東大阪市のよりよい未来へ

医工連携と文化芸術振興は、一見異なる領域に見えますが、都市の持続可能性という観点からは、相補的な関係にあります。産業分野では「命を守る技術革新」が進み、文化分野では「心を守る芸術活動」が広がり、都市の品格が高められています。

澤芳樹先生との出会いを通じて、本市は医工連携という新たな産業領域を切り開き、藤岡幸夫氏との出会いを通じて、本市は文化芸術の力を地域社会に浸透をさせていく。この出会いは、決して偶然ではなく、東大阪市というまちが持つ可能性を引き出すための必然の出会いだったのではないかと感じています。本市は、この産業と文化のシナジーを生かして、さらに多様な特色をもったまちとして、持続可能な社会を実現する道を歩んでいます。私はこれからも市民と共に、全身全霊をかけて、「WHERE THE ANSWER IS 答えのあるまち 東大阪」をさらに進化・成長させるため、一期一会を大切にして行動していきたいと思っています。そして、大好きな東大阪のすばらしい未来を築き上げていくことが、私が最も欣快とすることです。